

素 顔 拝 見

生体歯科補綴学分野 助教

青 柳 裕 仁

2014年4月1日より生体歯科補綴学分野の助教に就任いたしました青柳裕仁（あおやぎ ゆうじん）と申します。本学を卒業後、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再構築学講座先端材料評価学分野（旧歯科理工学第一講座）で歯科理工学の学位を修め、神奈川歯科大学生体材料器械学講座で講師として勤務しておりました。専攻分野は歯科理工学で、新規材料および新規器材の開発・評価を行っております。今まで基礎分野の教員として歩んで参りましたので、この度、魚島教授の御厚情により生体歯科補綴学分野の一員として御採用頂き、臨床に追われる日々を送ることに驚きを感じるがあります。人生、一寸先は闇と申しますが、だからこそ人生は面白くも切ないものだと痛感する今日この頃です。

現在教室では窓際の席を頂き、時折外を眺めますと、建物は変わりましたが平安閣が目に入り、学生時代眺めていた風景を思い出すことがあります。以前神奈川歯科大学に勤務していた時にも窓際の席でしたが、窓から顔を覗かせると窓より外はアメリカ軍の基地のため、なかなか刺激のある生活を送っておりました。誤って転落でもしてしまうと亡命にでもなるのだろうかとの好奇心もありましたが、ゲートを守備するアメリカ兵の装備の物々しさを目の当たりにしますと、流石に実行に移す勇氣はありませんでした。

最近では学生時代と比較しかなり体重が増えています。時々患者様から、「若乃花に似ている」や「くまのプーさんみたい」と言われ、臨床実習中の学生に笑われる日々を送っております。ちなみに、6年生に私の印象を聞いてみたところ、「菓子パンを食べている人」とのことでした。もう少しダイエットに努めようと現在真剣に考え

ております。

私生活に関しましては、家にTVがありません。正確には、TVがあってもTVが映りません。昔はニュース番組を見ていたので1日30分位はTVを見ておりましたが、近年ではインターネットで情報を得ることが可能なため、約8年前から自宅でTVを見るのがなくなりました。最近では実家への帰省時等で偶に見る位です。従いまして、現在のドラマやアイドルの話等を振られましてもほぼ分からない状態です。また、スポーツ観戦に関しましてもあまり興味がありません。一応ニュースには目を通しますが、選手名などはよく分かりません。

休日は他大学で研究を行っていることが多く、たまに自宅にいても家事で時間の大半が失われて行きます。なお、残された時間は、というより休日は朝から飲んでることが多く、気が付けば夜になっていることもしばしばあります。こうして文章にしてみますと利根的な生活を送っていることがよく分かりました。

最後まで稚拙な散文に御付き合い下さいまして誠に恐縮です。今後は少しでも母校に貢献できますよう努力していく所存ですので、御指導・御鞭撻の程よろしく願いいたします。



微生物感染症学分野
助教

土 門 久 哲

平成25年7月1日より微生物感染症学分野で助教を拝命しました。土門久哲と申します。この度、ついに素顔拝見の原稿依頼が来てしまいました。面白いことは書けないかもしれませんが、約1ページお付き合い下さい。

私は生まれが仙台市なのですが、父の仕事の都合上、小学校入学と同時に新潟市内に引っ越して参りました。その後は後述の一部の期間を除き、ずっと新潟に住んでいます。新潟高校を卒業し、そのまま新潟大学歯学部に入りました。学生時代の私は…と、ここまで書いたはいいものの、あまり特筆することの無い学生だったかもしれません。ひとつ挙げるとするならば、痩せていました。少なくとも当時は太らない体質だったようで、目標体重は50キロという、今から思えば大変贅沢な悩みを持っていました。中年太りで院生さんからもネタにされてしまう現在とは大違いです。助教着任の挨拶をさせていただいた時も、一部の先生方から、「土門君って、学生時代スレンダーだった、“あの”土門君だよな？」と言われてしまいました。はい、当時から体重の3割ほどお腹まわりの贅肉が多くなりましたが、本人です。健康診断で、腹囲測定係のおばちゃんに測ってもらった後「あら、測り間違いかもしれないわね。」となり、再度の測定後、残念そうな顔をされました。私もつらいです。

メタボの話はここまでにします。大学卒業後、私は歯周診断・再建学分野に大学院生として入局いたしました。大学院を選んだ理由は、研究と臨床を両方バランス良くやりたいと考えていたためと、縁あって同分野に誘われたためです。しかしながら、大学院生活を続けるうちに研究が好きになってしまい、大学院生活の7～8割くらいは研究をして過ごしました。進路を迷っている（特に新潟出身の）学生さんには、是非とも大学院に進学することをおすすめいたします。研究も経験することで、自分の進路の選択肢が広がるかもしれません。もちろん、そこから臨床に戻ることも十分に可能です。興味がある方は一度当分野まで見学にお越しください。現在、歯学科4年生と3年生が数名出入りしており、和気藹々と研究を楽しんでおります。

大学院修了間際の冬、突然指導教授の山崎先生より留学の話が舞い込んできました。留学先はアメリカのケンタッキー州のルイビル大学で、当時歯周病の研究において躍進を遂げた大学でした。ケンタッキー州といえばフライドチキンですが、

予想に反し、現地ではMで始まるハンバーガー店の方が人気でした。朝からドライブスルーに車の列ができており、そのうち2台がパトカーだった時、自由の国であることを実感しました。ラボでは主に歯周病と加齢関連の研究、またMD-PhDコースの学生さんに対して、研究手技の指導を行っておりました。指導というと聞こえはいいですが、実際は私が研究の先生、彼女が英語の先生、という形で時折英語を教わりながら研究をしておりました。スラッグを教わって2人して別のポストドクに怒られたこともいい思い出です。現地での2年間はいい経験となりましたし、いい思い出です。

帰国後も歯周科で3年間ほど研究と臨床をしておりましたが、今回、微生物感染症学分野の寺尾教授から助教のお話があり、お引き受けしました。現在は、臨床の代わりに、細菌学の講義の一部や基礎実習などを担当しております。まだ慣れない点も多く、ご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、新潟大学歯学部のため、研鑽を積んで参りたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



組織再建口腔外科分野
助教

長谷部 大地

2014年2月より口腔再建外科の助教に就任させていただきました長谷部大地と申します。文章を書くことが苦手な私ですが、この度、歯学部ニュースの「素顔拝見」の原稿執筆の依頼をいただきましたので、私のこれまでを簡単に書かせていただこうと思います。

出身は新潟県で、出身大学も新潟大学歯学部です。学生時代は野球部に所属しており、野球部では残念ながらあまり活躍できませんでしたが、楽しく6年間の大学生活を送ることができたと思っています。1998年3月に何とか歯学部を卒業する

ことができ、そのまま口腔再建外科に大学院生として入局しました。現在の国家試験は2月に受験、3月にその結果が判明しますが私の頃（約10年くらい前でしょうか）は、国家試験が3月で結果がわかるのが4月の中旬くらいでしたので、大学院生として入局したものの、歯科医師免許がもらえるのもらえないのかでモヤモヤした状態であったうえ、新しい環境に入ったばかりでしたので、合格がわかるまではどっちつかず状態だったと記憶しています。幸運にも歯科医師免許をいただけることができましたので、当初の予定通り、1998年4月より口腔再建外科での大学院生の生活が始まりました。私は特にこれといった研究テーマがなかったのでその当時の教授である齊藤力先生と現在の教授である小林正治先生と相談して、顎変形症の臨床研究を行うこととなりました。この研究はなかなか大変な研究で、今思い出してもよく続けられたものだと思います。私の研究は患者さんに協力をお願いするタイプで、それも少しストレスフル？な検査をお願いしなければならなかったもので、研究協力をお願いしても断られて、お願いしても断られる日々が続きました。それでも研究に快く協力してくる患者さんもいてくれて、お願いした患者さんのうち、半分以上が断られて研究のデータとして採用できなかったのですが、大学院の4年間で何とか学位研究として形にして、専門学会での発表や論文として投稿することができました。研究に協力してくれた方々には今でも大変感謝しております。こうして2005年に無事大学院を卒業して、医局より関連施設病院へ出向させていただくこととなり、山形県の鶴岡市立荘内病院歯科口腔外科へ1年間赴任させていただきました。その翌年に大学へ復帰し1年半病院の医員として大学病院で働かせていただき、2011年10月からは長野県の長野赤十字病院口腔外科へ半年間、2012年からは富山県の富山県立中央病院歯科口腔外科へ赴任させていただき、2013年4月から再び大学へ復帰し、現在に至っています。

これまで、新潟近隣の県の病院歯科を中心に色々勉強・経験をつまさせていただきましたので、助教として新潟大学医歯学総合病院でこれまでの経験を生かして新潟大学のお役に立てればと

思います。

まだまだ未熟な者ですので、皆様には色々ご迷惑をおかけするとは思いますが、何卒宜しくお願いいたします。



歯科矯正学分野
助教

丹原 惇

歯学部ニュースをご覧の皆さん、こんにちは。4月1日付けで歯科矯正学分野の助教を拝命致しました、丹原 惇（にはら じゅん）と申します。おそらく5度目？の登場となりますので、またお前か、と思われる方もいらっしゃると思いますが、少々お付き合いのほど、宜しくお願い致します。今までは、入学やら卒業やらで大学生活について書く事が多かったのですが、今回は素顔拝見との事ですので、私自身の特に、学部生時代の事について書こうと思います。

2001年4月に新潟大学歯学部に入學し、故郷の福井での生活から一変して、新潟市内で一人暮らしをスタートさせました。1年生の教養の期間は五十嵐キャンパス近辺に宿舎を借りる同級生が多い中、入学直後から東中通沿いの安アパートからバスで1年間、五十嵐へ通っておりました。家賃は安く、今のアパートと比べると古いのですが、立地条件が良かったのか、いろいろな人たちが訪れる場所でした。宅飲み会場はもちろん、グループ発表の準備やTシャツ製作所として使われたこともありましたが、何か群馬県人会に参加する学生の集合場所が私の部屋だった何てこともありましたが、もはや完全なプライベートスペースとはいえない場所となっておりますが、それはそれで楽しかった記憶があります。

それから、学部の6年間はバレー部に所属していました。新入生宿泊研修の時にレクリエーションでバレーボールをしまして、その時に意気投合したバレー経験者だった同期2名と一緒に入部し

て、汗を流しました。北医体やオールデンタルで毎年、北は北海道、南は福岡まで日本各地を訪れることができたのは部活動の1つの醍醐味でした。最初は、公式戦で全敗するという危機的状況でしたが、練習の甲斐もあって次第に予選リーグを勝ち進めるようになり、決勝トーナメントにも進める実力がついてきました。そんな矢先、5年生の春に着地失敗による右側下腿（脛骨および腓骨）の複雑骨折という不運に見舞われました。その後の2年は補欠でしたが、オールデンタルで準優勝まで行けたのは、私の学部生生活の中でも最も感慨深い思い出の1つです。私が出場したら優勝できたのか、それとも出場しなかったから準優勝できたのかは未だ謎のままですが、個人的には謎のまま良い思い出として残しておきたいと思っています。

普段の学部での生活は当然ながら講義がメインでしたが、2000年からカリキュラムが大幅に変更され、2001年入学の私たちは新カリキュラムの2年目に当たりました。今はすでに定着している早期臨床実習やスタディスキルズ、通称セルと呼ばれた細胞生物学が1～2年生の間にスタートしました。その他の講義でもグループ学習やプレゼンを行うものが多く、教科書で勉強するのは定期試験前くらいで、講義の時間でもとりあえず話し合いをしながらPCでスライドを作っていました。幸い、PC関連は得意中の得意ですので、好きなことをやっている感覚で講義を受けることができました。また、4～5年生でPBLが始まり、ト

リアルではありましたがOSCEやCBTもカリキュラムに導入されました。このような新しい試みが多い新カリキュラムが始まると、当然くっついてくるのが学生によるフィードバックです。6年間ととにかく大量のアンケートを書かされました。定期試験後に解答が終わった者からアンケートを記入して、退出というスタイルが多かったのですが、場合によっては、試験の解答用紙が2枚なのに対してアンケート用紙が5枚ということもありました。このアンケート攻めは卒業しても続き、研修先からアンケートを郵送したということもあった気がします。実はこの結果は歯学会雑誌第39号1巻に「新潟大学歯学部歯学科の新教育課程とその評価」という原著論文として掲載され、これを読んで初めて6年間自分たちに行われてきた歯学教育の全貌が分かった気がしました。

かなり端折った内容ですが、学部生時代の私の一端を書かせていただきました。在学中はまさか卒業後に教員になるとは思っておりませんでした。しかし、今、新カリキュラムでの試行錯誤の中で教育を受けた私が今度は教育に携わる立場になったことに不思議と縁を感じております。若手として、新教育課程を経験した卒業生として学生の視点に近い立場から歯学教育のお手伝いできればと思っております。若輩者ではございますが、歯学部の発展に少しでも貢献できるよう励んで参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

